

## 「砂防林を育てよう」ボランティア参加

11月10日（土）、酒田市飯森山地区の砂防林で、クロマツ林の枝打ちと枝条の集積する森林ボランティア活動が行われました。

この砂防林は、地域の暮らしや産業の基盤となっている歴史的な遺産であり、当飯森山地区は、この砂防林に囲まれ教育・文化施設、スポーツ施設が整備され、多くの市民が集う地区であるとともに、市民参加の砂防林保全活動の拠点となっています。

このため、先人が残してくれた砂防林を、市民自らの手で守り育てていこうという意識を高め、良好な環境を次世代に伝えていくことを目的として、「砂防林を育てよう」森林ボランティア活動を平成12年から行っており、今年で13回を数えました。

10日の朝方まで寒気を伴った低気圧のせいで、激しい雨風・雷に見まわれましたが、ボランティア作業開始前に雨も上がって絶好の作業日和となり、当日は、朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター2名、山形県、酒田市、東北公益文科大学学生、山形大学生、宮野浦小学校、北庄内森林組合、建設業関係者、酒田地区ボランティア団体、一般市民等の約250名の皆さんが参加しました。

まず、参加者全員が酒田美術館の塀をバックに記念撮影を行いました。

参加者の皆さんは、1班から5班に分けられ、決められた作業場所で班長の指示のもと枝打ちと枝条を集積する作業を行うことになりました。この「砂防林を育てよう」の森林ボランティアの特徴としては、東北公益文科大学学生が班長を務めることが恒例になっています。当センター職員の2名は、1班と2班に分かれて作業を行いました。まず、班長から作業場所のエリアや枝打ちの仕方や安全作業するための注意点などの指導を受けました。1班や2班には、宮野浦小学校の生徒や先生及び保護者が大勢いたことから、班のリーダーの皆さんは、鋸の使い方などについて、マンツーマンで指導していました。班の人数も多いこともあり、たちまち作業エリア内の枝打ち作業が終了し、次の作業の枝条集積作業を行いました。生徒の皆さんが自分の背丈より大きい枝条を汗をふきふき運んでいる姿がまぶしく見えました。ある女の子はキクラゲを見つけ、すぐ校長先生に報告していたり、ある生徒の男の子は、取材に来ていたテレビ局のカメラマンの前で自分を映してもらおうよう一生懸命にアピールしたりしていました。班員全員の頑張りでクロマツ林は見違えるほど綺麗に生まれ変わりました。

最後に班長から作業の反省点やケガがないかの確認が行われ、班員全員で綺麗になった作業地を眺め作業が終了しました。

この砂防林がこれからも飯森山地区を始めとする地域の人々により守られることを期待します。

